



2014年 5月18日 日曜日
(平成26年)

70歳以上 棄権は体調不良

70歳以上の有権者が選挙を棄権した理由は体調不良が最多。そんな「投票弱者」の存在が埼玉大学・社会調査研究センターの調べで明らかになった。昨年のさいたま市長選(5月19日)直後に実施した政治意識調査の結果を基に「投票しなかった人」の動向に焦点を当て再分析した。

と指摘している。

調査は昨年5月、同市の有権者千人を対象に郵送法で実施。694人から回答があった。それによると、同市長選で「投票した」が52%(実際の投票率38%)、「投票しなかった」は46%。松本教授は「回収率が高かったことから、普段捉えられない棄権者の動向を分析できた」と話す。

センター長の松本正生教授は「各種選挙で低投票に歯止めがかけられない状況で、『投票弱者』と呼ばれる人たちに對する何らかのケアが必要になってくるだろう」と

分析できた」と話す。

投票しなかった人たちに棄権理由を聞いたところ、20~50の各年代が「選挙に関心がなかった」「政策などの違いがよく分からなかった」

埼玉大・社会調査研究センター

さいたま市長選で分析

たがトップだったのに対し、70歳以上は「病氣・体調不良」が最多の36%。60代は24%で「重要な用事があった」(30%)に次いで多かった。70歳以上男性の特徴として「投票所が遠かったから」を棄権理由としたのが17%を占めた。年代別の投票行動も違いが鮮明になった。市長選で投票したかどうかは、50代以上が6割を超えたのに対し40代は46%、30代は39%、20代は22%といずれも5割に届かなかった。特に20代男性は15%と極めて低く、松本教授は「単身の若者男性の地域社会へのアイデンティティ(地元意識)の希薄さが類推できる」としている。(沢田裕仁)